

A-117 宮崎県門川町漁業地域の栄養摂取状態について

緑ヶ丘学園延岡短大 志賀リツ オノあや子 川並千香子

目的 宮崎県門川町漁業地域における各家庭の栄養の実態を把握しその傾向を知ることにより今後の栄養改善の基礎資料とすることとを目的として栄養調査を行なった。

方法 1)調査時期 昭和50年7月12日～14日 連続3日間

2)調査対象地区 門川町漁業地域 (52世帯)

3)調査項目 1.食物の摂取状況 料理名・食品名・摂取量

2.生活アンケート 炊事場の設備・食生活に対する関心度

4)調査実施方法 食物栄養専攻2年の学生2名が1組となり連続3日間において調査対象の家庭を訪問し、朝・昼・夜の食事の前後6回にわたり実際に摂取した食品を秤量して調査項目に従って調査用紙に記入した。

結果 栄養調査の結果、蛋白質は基準量との差はみられなかったが、中でも動物性蛋白質は獣鳥肉類・魚介類から充分摂取しており総蛋白質に対する割合は基準量40%に対して $52 \pm 13\%$ あり量に換算すると充足率140%となつた。他の栄養素は鉄を除いてかなり不足し有意差が認められ、特にカルシウムの35%不足、ビタミン類の全体的不足が顕著であり平均値ビタミンA =  $908 \pm 553$  I.U., B<sub>1</sub> =  $0.71 \pm 0.24$  mg, B<sub>2</sub> =  $0.67 \pm 0.23$  mg, C =  $32 \pm 14$  mgとなりさらに調理損耗率を考慮するとビタミンA = 64%, B<sub>1</sub> = 50%, B<sub>2</sub> = 61%, C = 68%不足であった。又調査対象地区が漁村であったので、相対的に蛋白質、鉄の充足が認められ、カルシウム、ビタミン類の不足の傾向がみられたが、アンケートの結果より食生活への関心は持ちながらも、栄養面、調理段階へ生かされたい実態が明らかにされた。